

キャリア教育における家庭科の役割

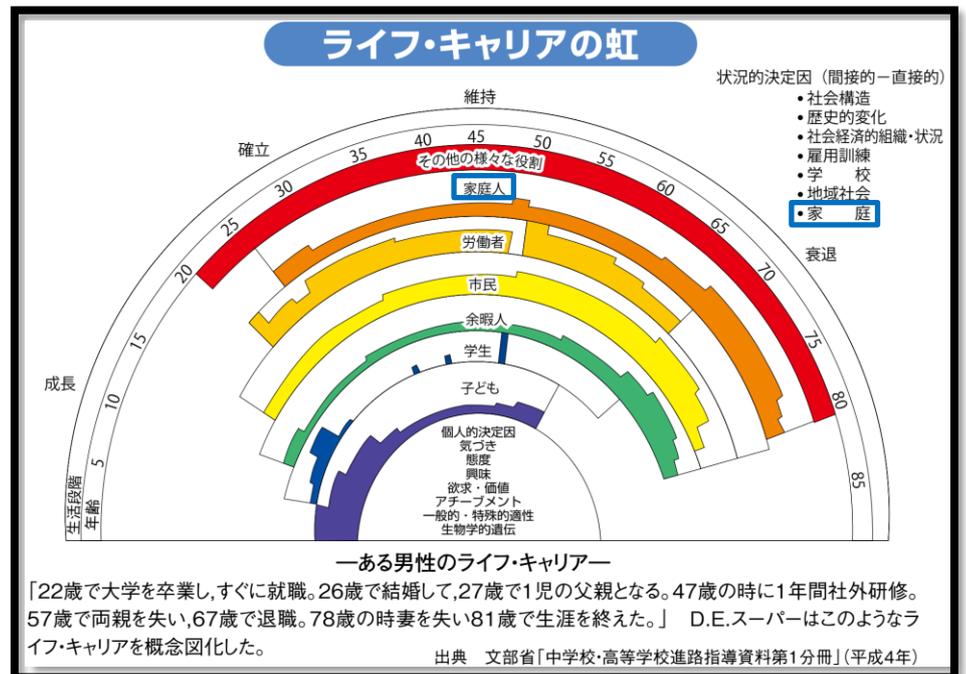
キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。改めて、この中の「社会的自立」に向けた家庭科の役割について考えてみます。

中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(平成23年)」では、「キャリア」の捉え方はこのように示されています。「人は、他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。(中略)このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、『キャリア』の意味するところである。(下線は筆者による)」

このことから、「社会的自立」のためには、家庭での日常生活を含めた中から、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていくことが必要となります。

また、「小学校キャリア教育の手引き」には、「キャリア発達」の解説として、ライフキャリアの虹(青枠は筆者による)が示されています。特筆すべき点は、生涯における「家庭人」としての面積の広さです。

キャリア教育というと職業的自立に目が行きがちですが、そのキャリアを生涯におけるものと捉えると、社会的自立の意義が分かります。そんな中での家庭科教育の役割を意識しつつ、日々の実践に当たっていただければと思います。



新原小 6年「すずしく快適に過ごす着方と手入れ」

【実践内容】

本学習では、自分が涼しく過ごすための服装について考える活動を行った。「暑い日に外に出掛けるとしたら」という場面設定で取り組んだ。

(1) 家庭学習との往還

家庭学習で自分の一番涼しい服を全身コーディネートし写真を撮ってきてもらった。そして、写真の周囲に涼しくするために工夫したことを児童がオクリンクプラスのマイボードを使い、書き入れておいた。



<オクリンクプラスを活用したグループ活動の様子>

(2) オクリンクプラスを活用したグループ学習

マイボードにまとめてきたものを、みんなのボードでグループごとに共有した。涼しい服装としてどこがよいかを話し合い、コメントに友達へのアドバイスを書き込んだ。その後、全体で共有したことをもとに、自分の選んだ服装がどうすればより涼しくなるかを考えた。

【成果】

実際に、自分の服を使ったコーディネートを考えてので、どの児童も主体的に活動に取り組んでいた。また、友達の服装も写真で見ることができたため、イメージが湧きやすく、アドバイスもしやすかった。

オクリンクプラスを活用することで、個々のタブレットで友達の考えを見ることができた。また、コメント機能によって、違うグループの友達にも意見をすぐに伝えることもできた。教師も、誰からのアドバイスかを見取ることができ、評価もしやすいように感じた。

(文責：河合由似)

新津小 5年「ソーイングはじめの一歩」

【実践内容】

本学習では、基本的な裁縫の仕方、裁縫用具の使い方やきまりを学習する。裁縫用具を初めて使用する児童も多く、初めての学習に意欲的な児童が多い一方、学習進度に大きく差がみられる内容である。そこで、本校では以下のようにICT機器を活用して取り組んだ。

(1) 実物投影機の活用

用具の確認から、裁縫の仕方まで実物投影機を使用し、教師の手元を映しながら指導を行った。特に、初めて行った玉結びに関しては、繰り返しコツを伝えながらゆっくりと行った。

(2) タブレットの活用

実物投影機で全体指導を行った後、タブレット端末から教科書のQRコードを読み込み、動画を再生した。動画を繰り返し再生しながら、教師はつまずいている児童に個別に対応した。



<実物投影機にて手元を映す>

【成果】

授業の中で、初めに教師の手元を見せながら、やり方を説明し、その後教科書のQRコードの動画を繰り返し再生することで、児童の進度に合わせて取り組むことができた。また、動画は再生スピードも変えられるため、ゆっくり繰り返し見たい児童にとっては特に有効であった。慣れてきたところで、児童同士で教え合う姿も見られ、主体的に学習に取り組む様子が見られた。

(文責：大倉由季子)

第3回研修会 授業研究の見どころ

10月30日(水)14時より、第3回研修会を行います。今回は2つの会場に分かれて、授業を参観します。1～4部会は和田小学校、5～8部会は都田南小学校へ御参加をよろしくお願ひします。

<1～4部会>

5年「食べて元気に ～思いが詰まったオリジナルみそ汁を考えよう～」

和田小学校 北原 彩加 教諭
大坪 亨華 教諭

本題材は、「なぜ毎日食事をするのか」という食事の役割や大切さについて、題材を通して迫っていきます。学習のゴールには、学習したことを生かしてオリジナルみそ汁を児童一人一人が考える活動を設定しています。これからの食生活に役立てていくことも考えられている内容となっています。

題材計画の中では、児童が毎日食べている給食について取り上げ、学校にいる給食の調理員さんの思いを聴くことができる時間を設定したり、栄養教諭と連携をして栄養素についての学びを深めたりすることができるようにしています。

本時の見どころは、給食の調理員さんの思いや料理を作ってくれる家族の思いを知り、オリジナルみそ汁を子供たちが考えていくところです。グループの中で自分が考えたみそ汁を紹介しながら、児童が主体的に取り組めるような活動も取り入れています。ぜひ、御覧ください。

<5～8部会>

5年「食べて元気に ～みんなにやさしいご飯とみそ汁～」

都田南小学校 岩本 葉奈 教諭

本題材は、食領域における児童の基礎的知識・技能だけでなく、食生活をよりよくしようと工夫する力や実践的な態度を育成しようと、題材計画を工夫しています。その中での見どころは次の2点です。

1点目は、栄養教諭と連携し、日本の伝統的な食事である「和食」のよさについて学ぶ点です。様々なだしとみそとの組み合わせを味わったり、みその種類について話を聞いたり、実践的体験的学習を通して学んでいきます。

2点目は、環境に配慮した豊かな食生活を主体的に創り出す大切さに気付くために、総合的な学習の時間と関連させて題材計画を立てている点です。総合的な学習の時間では、エシカル消費やSDGsの視点を踏まえた講座を取り入れて学んできました。それを、家庭での実践につながるように題材計画を立てました。特に本時では、環境に配慮した「愛・地球ポイント」が入った調理計画になっているか、友達同士でアドバイスをし合います。子供たちが自分事として話合う姿が見られるように工夫した本時の学習計画です。どうぞ、御覧ください。

【編集後記】

実践紹介では、オクリンクプラスを活用したグループ学習をしたり、ICTの機器を活用して個に応じた支援をしたりと、子供たちがより学べる工夫がたくさんありました。第3回家庭科研修会の授業研究は、1学期から計画を立てて、児童が主体的に取り組める授業の準備をして下さっています。どうぞよろしくお願ひいたします。 上島小学校 鈴木 あゆみ